

みんなのけんこうガイド



← おとな

(おおむね 30歳～64歳)

↻ こども

(乳幼児)

駐車場は、児玉総合支所または第二庁舎をご利用ください。

児玉保健センター ☎ 5540

本庄市保健センター (本庄市休日急患診療所) ☎ 2003

乳幼児健康診査・健康相談 【受付時間】 印・・・午後1時～1時30分、 印・・・午前9時30分～10時
 *対象者には通知します。

内容	対象となる人(お住まいの地域)	日程	会場
3～4か月児健康診査	平成19年2月生まれ(本庄地域)	6月28日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては7月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
9～10か月児健康相談	平成18年8月生まれ(市内全域)	6月28日	本庄市保健センター
1歳6か月児健康診査	平成17年11月生まれ(本庄地域)	6月27日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては7月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
2歳児健康相談	平成17年5月生まれ(市内全域)	6月29日	本庄市保健センター
3歳児健康診査	平成16年5月生まれ(本庄地域)	6月29日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては7月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター

予防接種 【受付時間】 午後1時～1時30分
 *対象者には通知します。対象月齢を過ぎても接種していない場合はお問い合わせください。

内容	対象となる人(お住まいの地域)	日程	会場
BCG予防接種 (接種可能な月齢: 6か月未満)	平成19年3月生まれ(本庄地域)	6月19日	本庄市保健センター
	平成19年3月生まれ(児玉地域)	6月14日	児玉保健センター

相談・学級 【会場】 児玉保健センター
 *電話による育児相談は、各保健センターで随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

内容	対象となる人	日時	その他
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	相談・計測希望の人	6月14日 午前9時30分～11時	前日までに電話予約してください。
コアラクラス (育児学級)	2～3か月児とその保護者	6月7日・7月5日 午前10時～11時30分	対象者に通知します。
カンガルー広場 (情報交換・友達づくりの場)	0～2歳児とその保護者	6月4日・7月2日 午前9時30分～正午	おやつを持ち込みはできません。
おや親タマゴ(全4回)	これからママ・パパになる人	6月1日・8日・13日・16日 午前9時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。16日はできるだけご夫婦で参加してください。
わんぱくツインズくらぶ (情報交換・友達づくりの場)	多胎児とその保護者	6月22日 午前10時30分～正午	多胎児を妊娠中の方も歓迎。



健康診査（肺がん・結核検診）

～今年から、肺がん検診と結核検診が1つの検診になりました～

前年度受診者、新規対象者には受診券を郵送しました。受診券が届かない人で受診を希望される場合は、お問い合わせください。

本庄市保健センター会場

- ・日程 7月2日～6日
最終日6日は午前のみ

児玉保健センター会場

- ・日程 7月9日～11日
共通
- ・受付 午前9時～10時、午後1時～2時
- ・対象者 40歳以上の人
- ・料金 200円（喀痰検査が必要な人は別途500円が必要です。）

大腸がん検診の受診希望者は、集団検診の時に申し出てください。料金と引き換えで、採便容器、問診表、検体提出日程表をお渡しします。

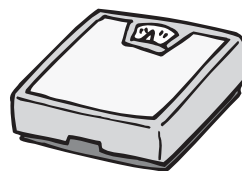
- ・料金 500円

教室・講座【会場】本庄市保健センター

『本気でダイエット』

「やっぱりやせたい！それも健康的に！」とお考えのあなたのための教室です。健康づくりのエキスパートの市の管理栄養士・保健師が腕によりをかけてあなたのダイエットをサポートします。

- ・日程 7月18日・25日・8月1日・8日・11月7日 各水曜日 全5回
- ・時間 午前9時～正午
8月1日は午前9時から午後2時です。
- ・会場 本庄市保健センター
- ・対象者 30～40歳代の市内在住者
- ・定員 20人
- ・申込 7月10日 までに本庄市保健センターへ（先着順）



医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

これからの予防接種

日本は麻疹の輸出国だということご存知ですか？現在、東京、埼玉県南部あるいは本庄児玉周辺で麻疹が流行の兆しを見せています。

感染症には予防接種がつきものです。予防接種は接種しなければ効果はありませんし、現在の接種率は、80%前後ですが、流行を阻止するためには、90～95%以上の接種が無ければ十分な効果を発揮できません。

外国では、ワクチンで防御できる病気はワクチンで予防するのが基本となっております。諸外国では、なかなか病院等にかかれぬなどの医療事情もありますが、ワクチンで防げる病気にかかるとは、いろいろな面でもつたいないことです。できるだけワクチンを利用しましょう。

ところで、新しいワクチンが認可になりました。H b（ヒブ）ワクチンです。来年から、三種混合ワクチンとの同時接種で行われますが、当面は自費の接種となります。H bとはインフルエンザ菌b型の略称で、インフルエンザウイルスではなく、細菌です。とても予後の悪い髄膜炎や喉頭蓋炎を起こします。

現在の化膿性（細菌性）髄膜炎の原因菌の最も多いのがH bです。

H b 髄膜炎は50%以上が0才児で罹患し、5歳までの罹患児が年間600人にもなります。しかも、たちの悪いことに抗生剤の効きにくい耐性菌が80%もあります。そこで、かかる5～10%の人は亡くなり、20%の人には後遺症が残る怖い病気です。

現在、H bワクチンは世界で100か国以上の国々で導入されています。今まで導入されていないのは、日本、北朝鮮、中近東とアフリカの国々で、欧米はもとより中国、韓国でも導入されています。効果は画期的なものです。なぜ今まで導入されなかつたのか、日本がワクチンの後進国といわれるゆえんです。とりあえず自費ですが、できるだけ接種をされたほうがよいと思います。

いまひとつのワクチンは、肺炎球菌ワクチンです。現在、日本では高齢者が接種されていますが、効果的なものです。一方、小児ではいまだ適応がとられていませんが、世界的にはどうでしょう？2000年から米国で導入され、現在70か国以上で導入されています。

肺炎球菌もH b同様に非常に耐性菌が増えてきています。肺炎球菌は、敗血症、髄膜炎、治りにくい肺炎、繰り返す中耳炎などの原因となつていきます。そして治療に難渋しています。そこで、肺炎球菌もH b同様にワクチンが重要な役割をもっています。

早期に、小児に適応がとられるように祈っています。